



勇敢な幕末女衆五人旅

遠山元信

幕末の天保14年(1843)2月、一般の農民では旅なんて簡単にはできない時代、相模国淵野辺村(神奈川県相模原市)から女衆五人が思わぬ旅に出た。

リーダー格は名主の奥さん53歳。他の方々は名前も年齢も判らないが、ほぼ同様な年頃ではないか。

2月22日淵野辺村を出発し多摩丘陵を越え箱根ヶ崎(東京都瑞穂町)で初日の宿。23日は坂戸村(埼玉県坂戸市)。24日は坂東札所11番の吉見観音(埼玉県吉見町)を経て、岩殿村(埼玉県東松山市)泊。25日は坂東10番岩殿観音、9番の慈光寺(埼玉県ときがわ町)を経て大野村(埼玉県ときがわ町)泊。26日は峠を越え秩父順礼の開始。1番妙音寺、2番真福寺、3番常泉寺、4番金昌寺、5番長楽寺とまわって横瀬村(埼玉県横瀬町)泊。27日は6番から21番までまわって寺尾村(埼玉県秩父市)泊。28日は22番から30番までで白久村(埼玉県秩父市)泊。29日は31番と32番を巡り般若村(埼玉県小鹿野町)泊。30日は33番と34番をまわって秩父札所巡りは満願となった。この日は北上して鬼石(群馬県鬼石町)泊。翌3月1日、秩父札所も終わったので相模国へ帰るのかと思ったら、足は西へと向き姫街道を利用し善光寺に向かう。一宮(群馬県富岡市)、初鳥屋(群馬県下仁田町)、和美峠を越え、小諸、下戸倉などに泊まり善光寺に参拝し宿坊泊。6日は再度下戸倉に泊まり翌7日は北国街道の上田から左折、上州道に入り鳥居峠下の渋沢(長野県真田町)泊。上州に入ると羽根尾(群馬県長野原町)、長藤(群馬県東吾妻町)、伊香保温泉(群馬県渋川市)などに泊。この長藤から伊香保温泉の間で榛名山を越えた公算が大きい。11日は坂東16番の水沢観音(群馬県渋川市)、15番の長谷寺(群馬県高崎市)を経て新町(群馬県高崎市)、中江田(群馬県太田市新田中江田)、佐野天明宿(栃木県佐野市)などに泊る。翌日、坂東17番出流(いずる)観音を経て

出流村(栃木県栃木市)、文挾(ふばさみ)(栃木県日光市)、鉢石(栃木県日光市)などに泊後、17日に東照宮と清滝円通寺(日光市・現清滝寺)を参拝し中徳次郎(宇都宮市)泊。翌日は坂東19番の大谷観音(宇都宮市)を経て日光街道を南下、石橋(栃木県下野市)、中田(茨城県古河市)に泊まり、20日は坂東12番の慈恩寺(埼玉県岩槻市)に参拝、大宮(さいたま市大宮)、日野(東京都日野市)などに泊まって、22日に淵野辺に帰着している。

実は同じ年の天保14年4月17日に將軍徳川家慶が日光社参を行っている。この大行列は規模が大きく先頭が日光に到着した時、最後尾は江戸を出立していなかったと言われていた位の規模で、將軍が外出するため全国へ鉄砲の取締りのお触れが出た。それは日光街道周辺だけでなく長野、新潟はもちろんのこと、能登半島まで出ていたという。全ての規模が違い、一年前以上前から準備が始まっていたことを考えると、関所は普段以上の厳しさだった筈で、日光社参一ヶ月前の旅行であることと、女性だけということも苦労も多かったのではないかと推察できる。

現在同じコースを実行しようとしても、記録のように休まずに歩くのは不可能ではないだろうか。もの凄いい体力と根性である。当時最大の問題と思われる金銭的な問題と家庭の問題はどのように解決したのかも気になる点である。女五人を動かしたバックグラウンドに何かあったような気もするが、相模国の女も強しを知らされた驚くべき記録と遭遇した。

参考文献『相模野に生きた女たち』(長田かな子著・有隣新書・平成13年1月25日発行)

連載 ゆにーく 標識&標石 雲取山一等三角点 返す言葉を失った解釈

ある時、雲取山の一等三角点標石が存在する位置の厳密な行政区はどこなのかという問題に直面した。点の記からでは東京都内であった。念のため行政関係数箇所に電話で質問、後日連絡があった某行政から予想外の返答があったので紹介する。「現地は東京、埼玉、山梨の三都県境に存在しますので、これを三角点と言い、さらに東京都最高地点に存在しますので、これを一等三角点と言います。そのため雲取山の一等三角点は東京都側に存在することになります」という返事であった。この解釈と説明には返す言葉を失い一瞬唖然とした。いくらこちらが素人でも、そんなレベルではない。しかし、相手から真剣味が伝わってくる状態であったため、丁寧に挨拶し失礼が無いように御礼申し上げておいた。国土地理院がこの現実に直面したらどうしただろうか。これが日本の行政だとすると「立ち上げれ日本!」と言いたくなる気持ちが十分判る。(遠山)



行ってきました**多摩川・荒川分水界 榎峠から岩茸石山****北野忠彦**

5月8日(晴れ) 青梅線軍畑駅 8:40 集合。8:45 出発。平溝川沿いに前回11月21日のコースを逆にたどり、9:15 榎峠。左手に高水山の道標があるが、分水界は右手、高圧線鉄塔のある400m等高線の小ピークと読めるので、右人家と書いてあるやや広い坂を上る。20mほどで鉄塔への巡視路の道標があったのでそれをたどり、10分ほどで鉄塔36号のピークに出た。ここからのくぐりは灌木の猛藪で降りるのがためらわれたので元の道を下り道標に沿って登った。小さなコルに出るとすぐ右上に鉄塔があるので取りついたが、茨の藪で高距高々20mほどの所を10分もかかってしまったが、榎峠からの分水界はつなくことができた。わずかな距離だったが、久しぶりの藪こぎに満足。ここからはほぼ分水界通しに比較的しっかりした道が続く。トレイルランの標識が立っており、ランナーが2人下って行った。610mの小ピークを下ると、平成4年の表示のある林道に出、分水界からややそれて633mのピークは左側をまく。その先はほぼ分水界を忠実にたどり、高源寺経由の一般コースに合流した。この先の、常福院を通るまき道の一般コースを避け、分水界をたどり高水山頂に達した(11:20~12:00)。岩茸石山に向かう道も何箇所かコースを避けて分水界をたどる。岩茸石山(12:25~12:50)からはすぐ先に黒山、その左手に棒の折れ山が見えるが、川井まではコースタイム5時間余りなので名坂峠から下ることにする。峠からの道は人通りがほとんどないらしく荒れて長い下りだった。八桑でバス通りに出て、大丹波マス釣り場入口の、ただ1件だけある食品店でビールを仕入れた。大丹波川沿いの斜面は、シャガが満開だった。川井で多摩川に降りようと奥多摩大橋を対岸に渡ったが、キャンプ場で一般は入場禁止となっていたので入口付近で一休み後川井駅に戻った。一日いい天気だった。(参加者:井上(希)、井上(千)、片野、鶴田(康)、北野)

行ってきました 会津只見町の蒲生岳**平野 彰**

5月8、9日蒲生岳に行ってきました。今回は5月22、23日に行われる科学委員会の探索山行の下見だ。当日は前日の雨も上がり上々の天気で、池袋駅前を7時30分出発。地理学の原田氏の意向で関越道からはいることにした。途中谷川岳や上州武尊山が真っ白だ。小出から一般道に下り、越後三山が良く見えるという場所で小休止。R252六十里越は除雪が終わり開通して間も

ない。ここで原田氏からアバランチ・シュートの説明があった。アバランチ・シュートとは雪崩地形のことで、山の斜面が削り取られ草木も生えず荒々しい山肌を表しているところだ。田子倉湖を過ぎ只見町で昼食後、蒲生岳登山口向かう。登山口の駐車場で猪苗代の江花氏と合流する。蒲生岳は会津のマッターホルンとも呼ばれ、標高828メートルの山だが、頂上からの展望は360度。真下に雄大な流れの只見川や、浅草岳や越後の山々が一望にでき最近益々人気の出た山だ。上り口は今は盛りのカタクリの群生地で、これほど広い群生地も珍しい。しばらくジグザグに行くところだ。岩場の急登になる。凝灰岩の岩場は頂上まで続くが、イワウチワが道沿いに咲き中腹には夫婦松の巨木もある。いくつかの鎖場を経て鼻毛通しで一休み。さらに急な岩稜を登りつめると頂上到着。頂上では20人ほどのグループが休んでいたが、我々と入れ替わりに下りていった。間近の岩山はアバランチ・シュートの宝庫で世界遺産ほどの価値があるとのこと。しばらく地形や周囲の山の説明を受けた後、去りがたい気持ちながら下山開始。東側の緩やかなルートは地震による崩落で通行禁止。西側のルートを下るが、初めからロープや鎖の連続でとても40人からのメンバーが使える道ではないと判断、往路を引き返すことになるが慎重さが必要だ。緊張の鎖場を過ぎやや緩やかな下りから雪の残る道を下ると漸く車道に着いた。ゆらりの里で汗を流し今日の宿の「森林の分校ふざわ」へ向かった

例会の議事録

2010年5月13日(木) 19:00~20:00 於JAC集会室

出席者16名(北野、平野、近藤、半田(明)、半田(由)、遠山、片野、寺田(正)、寺田(美)、

高橋、山崎、川口、長谷川、鈴木、小松原、今井(順不同)

内容: 多摩川・荒川分水界の探索を5月8日に行った。コースは軍畑駅、高水三山、名坂峠、川井駅。詳細は別記AGCレポート。

(北野) 古代通信技術のうち光通信実験のツールとして研究会員の案によるキューブミラーを寺田正夫会員が作成し、実物展示。

(寺田) 古代通信再現実験として光反射試験を長野県東部町の烏帽子岳から13km地点で行い、確認することが出来た。(近藤)

中華民国山岳協会招待の台湾玉山開山際参加と登山について報告。詳細はAGC35。(今井) 会津只見の蒲生岳山行報告。

詳細は別記AGCレポート掲載予定。(平野) 登山道調査に関して国土地理院と契約したとのこと(宮崎副会長担当)。

平野、近藤会員により、事務担当の会員を募集する。JAC同好会連絡会が6月21日に行われる。北野代表が出席する。(北野) 終了後「館の家」で懇親会(13名)。

以上 (記録:今井)

お知らせ**次回の例会**

日時 **2010年6月9日(水)** 18:30から

於: 山岳会 ルーム

テーマ: 読図山行、山岳通信 報告ほか

AGCレポート vol-36 2010年5月26日発行

発行: 日本山岳会・山岳地理クラブ(代表・北野忠彦)

〒102-0081 東京都千代田区四番町5-4 日本山岳会 気付

TEL 03-3261-4433 FAX 03-3261-4441

編集担当: 近藤 E-mail: hikarikon@nifty.com